

山口

やった～ 第31回大会時現勢突破！

山口県本部事務局長 糸山真理子

県の熱意にこたえて 支部・班が行動

班まで二ニュースで励まし合って

仲間づくりでは、大会員または機関紙を回すは減らさないけれど大きくも増やせないというのが山口県の特徴でした。しかしこの間、10支部中7支部が



全班交流会で笑いヨガを体験 (2024年12月1日)

ありました。

まず1つ目は、11月の仲間づくりビッグデーの仲間づくりです。2日前に開いたオンライン県本部委員会では、短時間でしたが、意見交換をがんばろうと確認できました。

ビッグデーは、各支部に電話で日に何度かつながり、励ましながらとりくみました。これを機に16人39部の仲間が増えて、前大会時回復までの距離をぐっと縮めました。

2つ目は、「ほっとニュース」です。みんなのがんばりを、大みそか、元日も「仲間が増えたよ」と送信しました。ニュースをラインで送って、支部・班

内まで届けています。以前はパソコン作成のニュースを貼り付けていましたが、「小さく見えない」という人もいて、どこでも簡単にすぐ打てるラインで送ることにしました。

他支部の良い経験も参考にするのができ、みんなががんばりあって仲間づくりをがんばる上で、ニュースはみんなの背中を押してくれました。「増やさないけんよね」の下松支部つくし班班長の声を聞いて、支部委員でもない会員が、次の班会の時に「しんぶん増やしたよ」と初めてのことになり、「ゆうてみるもんやね」と事務局局長さん。今までになく増やし手が広がりました。

次世代に勇気もらって

3つ目は、「11・21 オンライン全国交流会」です。他県の発言を聞いて参考になったし、自分たちの足りないところも見えてきました。視聴会が設けられ、当日見られなかった人が見ることができたのもよかったです。

県常任も「緊急オンライン会議」と「ロング常任委員会」をそれぞれ開いて、仲間づくりに真摯に向き合い、自分たちの一歩前進へ

交流会終了後に、小郡支部が組を組んで訪問仲間を増やすなど、ベテランも力をもらいました。突破まであと9人と9部に迫っていました。



長門コスモス班の班会でしんぶんタイム

平和の仲間ふやそう！

この間、核兵器廃絶めざす新婦人への共感で入会してくれた人が多いことが特徴的です。どこでも被団協のノーベル平和賞受賞が喜ばれています。入会の際には「入会してよびかけに「入会して何の力にもなれない」と話す人もいます。そこで「新婦人に入って平和の仲間が増えることは、国を動かす大きな力になる」と

話し、それなら入会した人もいました。「全班交流会」で久しぶりに出会った仲間、途切れることなく鳴る「ほっとニュース」の送信音。「何としても新婦人を大きく」との熱意に心えようと行動してくれた支部・班のみなさんの力で、今回の突破があります。全国大会に向けて、減らす積み重ねていきたいと思えます。

学校給食が できるまで

公立小学校栄養教諭 松本恭子



10年ほど前に地区の学校栄養職員対象にアンケート調査をした時、「和食を出す野菜が増える」という認識が栄養士の中で広がっていることを知りました。

そこで、私の学校では保護者への周知の後、1カ月間全ての給食を和食にすることにしました。子どもたちは、「和食だから残す」ことはありませんでした。分かったことは、「食べ慣れる」ことの重要性です。

「食べる」という経験

給食では、春には、そら豆やグリーンピース、夏にはヤングコーン、スナックエンドウ、秋には菊の花など、子どもたちが食べ慣れない旬の食材がたくさん出ます。そんな時には、低学年の授業と連携して皮むきやスジ取り、花びら摘みなどを通して、子ども自身が体中の感覚を使って観察し、関心を高めるのです。そうして出会った食材と給食で再会した時、多くの子どもたちは、

どもたちは、自身の経験に背中を押されて主体的に味わうようになるのです。

食べ慣れないものを味わう前に「キラリ」というのは子どもの常です。ある年の給食で、お節のように黒豆を甘く煮て給食に出しました。給食指導の時間にクラスを回っていると、「これキラリ」と私に声をかけてきた子がいました。私は「お！すごい！黒豆食べたことがあるんだ！」と返すと、「食べたことはない。似ているのを食べて好きじゃなかった」と言うのです。「もしかしらおもしろいかもしれないから1つだけ食べてみる？」と促すと、まわりの子がおもしろそうに食べている様子を見ながら、「1粒口にしました。どう？と聞くと、



サヤエンドウのスジを取る

次の一粒をまた食べています。私が他の子の様子を見て回るうちに、「先生！全部食べたよ」とうれしそうに報告してくれました。新奇性恐怖と言われる初めて見るものへの拒否感、家で食べていないものが給食に出た時に、低学年で頭着です。食べ慣れることよりも大事なことは、「食べ慣れないものに出会った時にどう向き合うのか」ということなのかもしれません。

(第2週に掲載)

主張

戦後・被爆80年の年が明けました。女性分野では国際女性年から50年、女性差別撤廃条約40年の節目にあたり、秋には第32回全国大会が開催されます。

昨年の総選挙で自民・公明が少数与党となり、国会が大きく様変わりするも1月24日、通常国会が始まります。安倍政権以来10年以上にわたって数の力で悪法を強行し、悪政を進めてきた政権与党が、野党の合意なしには予算も法律も強行できなくなりました。しかし、国民の支持を失いながら

戦後・被爆80年、 仲間ふやして全国大会へ

態度をとるのか、与党も野党も厳しく問われる国会になります。

今年夏の参議院選挙は、戦争も改憲もさせない、暮らしを守る国会をつくっていくうえで大事な選挙です。

も、自公政権は被災地能登の苦難にも、物価高騰、医療・介護や教育費の負担増に苦しむ国民の声にも背を向け、あらゆる分野で大軍拡優先の政治を続けています。女性・国民の願いに対してどう

各地でとりくまれている新春行動では、どこでも日本被団協のノーベル平和賞受賞が歓迎され、核兵器廃絶をめざし行動する新婦人への共感が広がり、入会につながっています。選択的夫婦別姓の実現へ、次世代会員とともに署名を集め各地から国会議員に声を届ける行動も注目されています。

「私の要求」で迫り政治と社会を動かしていく新婦人の魅力と役割が光っている今、まわりの女性たちに「新婦人で一緒に」と呼びかけ、この新年から仲間を増やす行動に踏み出しましょう。